

事業計画書

事業名	自助グループを形成し地域福祉を共に考える事業
場所	沼津市 原地内
実施予定期間	平成29年1月4日 ～ 平成29年3月31日
日程	実施項目・作業項目
	<p>NPO 法人青少年就労支援ネットワーク静岡（以下 NPO）は生活困窮者へ自立相談支援センター（以下センター）の業務を受託している。</p> <p>当団体は NPO のボランティアサポーターとして就労のために様々な支援活動を円滑に行うために発足した。就労支援において、お子さんが引きこもりやニートで悩んでいる場合や障害を抱える場合、問題がより深刻化し、本人の意思だけではなく、家族の抱える問題により就労に結びつかないケースがある。</p> <p>家族においては誰にも問題を話すことが出来ずに悩み、共依存に陥り、精神のバランスを崩すことも多い。</p> <p>また、就労支援だけでなく原地区のセンター利用者が多く、独居や生活困窮などが深刻なケースが多い。以上の現状の下、課題解決のために下記事業を行う。</p> <p>① 自助グループのワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的／カウンセラーや医療に頼らずに問題を抱えるもの同士で話し合うことで自分らしい生活を取り戻し回復することを目的とする。 ・開催予定／1月・3月（各2回 計4回） ・参加者数／5～10人 ・会場／カフェフラン（2回）、原コミュニティスペース（2回） ※各月それぞれ1ヶ所ずつ ・スタッフ／1人 ・参加費用／無料。但し、お茶・コーヒーなどの提供は有料 <p>② 講演会の開催</p> <p>目的／生活困窮や独居など課題の多い地区において、地域住民が何を問題として抱えているのか背景を探り、地域資源を最大限に活用して地域福祉の向上を図る。</p> <p>演題／地域福祉コミュニティを考える（仮題）</p> <p>講師／立教大学 藤井敦史教授（福祉コミュニティ学部）</p> <p>開催予定／2月</p> <p>会場／原コミュニティスペースまたは地区センター（予定） 及び原団地周辺の散策し、団地の現状把握を行う</p> <p>参加者数／30名（地域福祉関係者・自助グループ参加者・原地区住民他）</p> <p>参加費用／¥500</p>
事業効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害・困難や問題、悩みを抱えた人が同様な問題を抱えている人々同士共に当事者同士の自発的なつながりで結びつき、専門家を交えずに自らで、安全・安心できる場で語り合い、自らが回復するための手がかりの情報を得ながら、自立のエンパワメントをしていく。 ● ひとつの自助グループができることで 他の問題を抱えている人たちが模倣的に安易にグループ形成でき、地域福祉における自己解決手段となる。 ● 当事者同士の語り合いが中心だが、講演会を行うことで、グループ活動の閉塞感をなくしボランティアサポーターの各団体や自治会や民生員・地域住民や畑・空き家などの地域資源を利用し、さらに拡大した支援コミュニティを形成する ● 支援活動において利用者の多い原地区で開催することで、地域福祉の拠点として立ち上げた原のコミュニティスペースの周知を図るとともに、沼津駅周辺への支援

	<p>活動を受けられなかった者が利用出来る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 会場を当事者が利用することが多いセンターから民間施設（カフェフラン／沼津市高島町）へ切り離すことで、誰でも気軽に参加できる安心の場を提供し、センター利用者以外の者へ利用促進する。
--	--

※評価の視点については、募集の手引きを確認してください。

公益性	<p>自助グループへはセンターの事業からとりこぼれた方（制度適用外）、利用者以外にも参加することが出来る。</p> <p>また センター利用者にとどまらず、ボランティアサポーターのネットワークを通じて多くの市民にワークショップや講演会の参加を促すことで、様々な情報共有ができる。</p> <p>講演会の内容は SNS などで共有できる情報は積極的に発信していく。</p>
発展性	<p>自助グループは問題を抱える人たちが3名いれば開催できるため、問題を抱える人々を繋ぐことでグループを各地域に作る事ができる。またグループ活動の情報を共有することで連体して、様々な問題解決に対応することができる。</p>
地域性	<p>誰もが参加できる場をどんな地域でも定期的に用意できるように、NPO のボランティアネットワークを通じて行う。</p> <p>話しやすい場所、理解ある喫茶店やコミュニティスペースを利用し安心安全な場を提供できる情報を取りまとめ、地域で活動したい方への情報提供を行うことで、自助グループの活動支援を行う。</p>
必要性	<p>自助グループの利用者は東部地域にないため、静岡市または横浜・都内へのグループへ参加することがほとんどであるため、利用者の経済負担が大きいことから、沼津市内での開催がもてられている。</p> <p>身近で安心できる場所で開催することで、利用者の経済負担が軽減するとともに、自助グループの活性化に繋がり、地域福祉の向上が図られる。</p>
先導性	<p>複合的な問題を抱える方たちや、その家族は医療では解決できないことがあり、同じ問題を抱える人同士繋がることで、辛さを共感し、情報などを共有することができる。高額なカウンセリング代や医療費を支払うことなく自ら回復に繋がる糸口を見つけることで福祉費用への軽減に繋がる。</p>
継続性	<p>安心安全な場所を確保すれば自助グループを作り活動できるため、今後、自助グループ活動を行いたい人々への場の運用方法を既存のグループ活動を通じて学んでいただく機会を作る。</p> <p>小さなグループをたくさん作ることで、だれもがファシリテートできる様に進行を統一させ（運用方法のマニュアル化）、失敗のない自助グループ形成を図る。また、グループ活動でも問題点を話し合う機会を設け連帯していく仕組みを作る。</p> <p>自助グループは運営費用がかからないが、定期的に学習会や講演会を行い、グループ周知図るとともに、財源と利用者を確保する。</p>